

令和元年度 学校教育自己診断結果

● 実施時期 令和元年 11 月

● 回 答 生 徒：93 名（14 名減） 保護者： 9 名（12 名減） 教職員： 21 名（ 3 名減）

※昨年度：生 徒：107 名 保護者： 21 名 教職員： 24 名

1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目	肯定的意見(回答3・4の合計)(%)	R1	H30
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	84.9%	84.1%
12	学校生活についての先生の指導には納得できる。	83.9%	73.8%
20	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	81.7%	78.3%
22	個人情報についてプライバシーが守られている。	81.7%	77.6%
26	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	81.7%	78.5%
2	この学校には、他の学校にない特色がある。	80.6%	82.2%
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	79.6%	82.2%

・「悩みや相談に応じてくれる」「意見をよく聞いてくれる」など、教員と生徒とのコミュニケーションに関する評価が高かった。特に、12「学校生活についての先生の指導には納得できる」のポイントが大きく上昇した。指導が一方向的にならないよう、教員が生徒とのコミュニケーションを重視した指導の取組みを生徒が肯定的に捉えていることがうかがわれる。

・授業については、「教え方の工夫」が前年度同様の評価を得た。教員向けアンケートでも授業作りを工夫したり授業改善について肯定的意見が多く、「生徒が分かる・できる授業作り」に向け好循環が生まれている。

・「他の学校にはない特色がある」「命の大切さや社会のルールを学ぶ」の項目から、生徒がⅢ部の学校の特色を理解している様子がうかがえる。

○肯定率の低い項目		R1	H30
18	部活に入っている人だけ解答 → あなたは部活動に楽しく取り組んでいる。	43.0%	48.6%
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	47.3%	50.5%
1	学校へ行くのが楽しい。	60.2%	67.3%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	61.3%	59.8%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある。	63.4%	50.5%
9	授業やホームルームなどで、学校以外の先生方から話を聞く機会がある。	64.5%	62.6%
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	65.6%	59.8%

・授業に関する項目では、昨年度よりも肯定率が増加した。教員の授業改善や「生徒が分かる・できる授業作りの」取組みが着実に実を結んでいると捉え、取組みをさらに進めたい。

・部活動や地域の人々との交流については、活動時間などさまざまな制約があるのが現状であるが、授業や行事などの見直しのポイントとして捉え、改善点の有無を検討したい。

2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

○得点の高い項目

「学校に対する項目」

生徒：悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	《81.7%》
保護者：学校は教育情報を、保護者に提供する努力をしている。	《100%》
教職員：学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	《95.2%》

「教育活動に対する項目」

生徒：教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	《84.9%》
保護者：子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている。	《100%》
教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。	《100%》

「学校に対する項目」では、教員と生徒・保護者とのコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。これは昨年度と同様で、日ごろから教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることが評価されたものと捉えられる。

「教育活動に対する項目」では、授業に関する項目が高かった。教員は生徒の状況を踏まえて授業を展開し、生徒・保護者はそれを肯定的に捉えている。特に、生徒が「教え方を工夫している」と捉えており、教員の授業作りが、単に授業内容を簡単にするのではなく、「生徒が分かる・できる」という点から授業作りを進めていることがうかがわれる。

○得点の低い項目

「学校に対する項目」

生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。	《47.3%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	《55.6%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。	《52.4%》

「教育活動に対する項目」

生徒：授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	《61.3%》
保護者：学校は、進路や職業などについて適切な指導を行っている。	《87.5%》
教職員：思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	《71.4%》

「学校に対する項目」では、「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。これは昨年度と同様の傾向である。活動時間や規模などの点で定時制独自の制約はあるが、生徒に社会参画の経験を積む機会を用意するという点から、地域と連携した取り組みを検討していきたい。

「教育活動に対する項目」に上がっている項目は、他の項目に比べて低い値を示したものであるが、評価自体は概ね評価されていると捉えられる。生徒と教職員の授業に関する評価は、昨年度に比べるとそれぞれ肯定率は上がっており、教員の取組みが生徒に肯定的に捉えられていることをふまえ、今後も授業改善に取り組むたい。同様に、保護者の項目で上がった「進路や職業の指導」も着実に取り組みを進めていく。